

## 斑点米カメムシ類の発生が多くなっています！

～斑点米の発生防止には乳熟期の防除が重要です！～

### [発表の内容]

作物名 : 水稻

病害虫名 : 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ, アカヒゲホソミドリカスミカメ等)

発生量 : 多い

発生地域 : 県下全域

### [発表の根拠]

- ① 7月下旬現在, 水田内における斑点米カメムシ類(写真1~3)のすくい取り虫数は平年より多く, 発生地点率は平年より高い(表1)。
- ② 7月下旬現在, 有効積算温度から計算したクモヘリカメムシの産卵開始時期は平年より早い。また, 高温条件下では産卵数が増加する。

### [防除対策]

- ① 成虫を対象とした防除適期は, 穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は防除を実施する。
- ② 幼虫を対象とした防除適期は, 出穂 10~15 日後頃(乳熟期)である。斑点米の発生を防止するためには, この時期の幼虫密度を低下させることが重要であり, 乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生量が多くなる。
- ③ すでに空中散布などで防除を実施した水田であっても, その後幼虫がふ化したり新成虫が再飛来したりするので, 発生を認めた場合は表2を参考にして追加防除を実施する。
- ④ ふ化直後の幼虫は非常に小さいため, 発生していても気付かない場合がある。出穂期に成虫を確認した水田などでは, よく観察する。
- ⑤ 収穫の遅い水田では, 8月中旬以降に新成虫の飛来により密度が高まることがあるので注意する。
- ⑥ 防除の際には, 薬剤の使用基準に定められた収穫前日数を遵守する。また, 周辺(特に早生品種を作付している水田がある場合)への飛散に注意する。

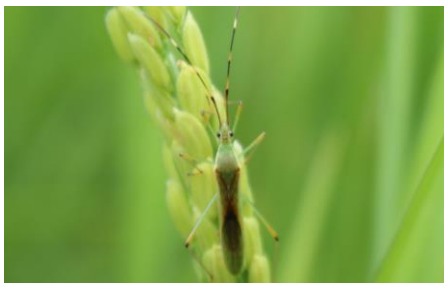


写真1  
クモヘリカメムシ成虫

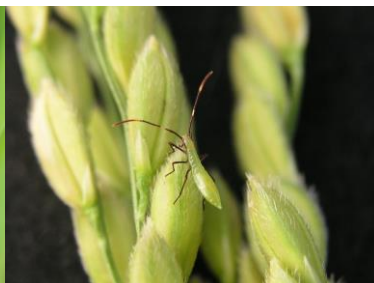


写真2  
クモヘリカメムシ幼虫



写真3  
アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫

表1 水田内における斑点米カメムシ類の地域別生息状況（平成29年7月下旬調査）

地域	調査 地点数	すくい取り虫数(頭/10回振り)			発生地点率(%)		
		本年	平年 <sup>1)</sup>	順位 <sup>2)</sup>	本年	平年 <sup>1)</sup>	順位 <sup>2)</sup>
県北	8	2.8	0.2	1	63	17	1
県央	15	0.9	0.3	1	33	20	1
鹿行	6	0.5	1.1	6	17	28	8
県南	19	0.3	0.2	3	21	12	3
県西	9	1.4	0.2	1	44	14	1
全県	57	1.0	0.3	1	33	17	1

1) 平年:平成19～28年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:本年を含む過去11年間における本年値の順位を示す。

表2 水稻のカメムシ類に使用できる主な薬剤（平成29年7月26日現在）

薬剤名	使用方法	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分	IRAC コード <sup>1)</sup>
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	散布	2000倍	収穫7日 前まで	3回以内	ジメトフラン	4A
キラップフロアブル	散布	1000～2000倍	収穫14日 前まで	2回以内	エチプロール	2B
MR. ジョーカーEW	散布	2000倍	収穫14日 前まで	2回以内	シラフロフェン	3A

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

（注意事項）

- ・農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用方法、注意事項を必ず確認のうえ使用する。特に、育苗箱施用を行った場合、有人へり防除または無人へり防除を行う予定がある場合は、本剤の使用回数ならびに有効成分の総使用回数に十分注意する。
- ・ミツバチ被害軽減のため、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時まで）の農薬の散布をさける。